

# 二〇二二年度 入学試験問題

## 国 語

### 第二回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから七ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

**問一**

——(1)「知覚経験」とありますが、知覚経験にはどのような側面がありますか。解答らんに三行以内で説明しなさい。

**問二**

——(2)「こうした事情」とありますが、これはどのような事情ですか。解答らんに四十字以内で説明しなさい。

**問三**

——(3)「経験」とありますが、これはどういう経験ですか。「経験」という言葉に続くように、本文中から五十五字以上六十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

## 問四

——(4)「日常生活のなかでも場合によっては、この側面が浮き上がってくる場合がある。」とありますが、この場合の例としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 長い昼寝から目が覚めたとき、部屋の中には茜色の夕日が差し込んでいて、とても綺麗だと感じた。

イ 夏休みに家族で海に出かけたとき、浜辺で水遊びをしながら遊んでいて、太陽の眩しさが目に染み込んだ。

ウ 美術館で絵画を鑑賞しているとき、特定の年代の作品群に興味を持ち、いくつもの絵を比較しながら鑑賞した。

エ 夜中に満天の星を眺めているとき、幻想的な夜空に心を惹かれ、自分も星の一つになったような気がした。

## 問五

——(5)「ただし、この場合、美しい色を見たり、心地よい鳥の声を聞いたりしている自分が楽しい気分になった、というだけではない。」とありますが、「美しい色を見たり、心地よい鳥の声を聞いたりしている自分が楽しい気分になった」という具体例では足りないと思われるのはなぜですか。解答らんんに二行以内で具体的に説明しなさい。

## 問六

□ A □ D に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア たとえば    イ しかし    ウ したがって    エ そもそも

## 問七

——(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

## 問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人は知覚経験の中で生きているが、そのことを意識する機会は少なく、美しさや心地よさを感じているときに、その経験の例外性という危機感の中で、ようやく知覚経験を意識することができる。

イ 人が知覚経験の中で生きていることは自明のことであり、経験が危機に瀕して日常性が成り立たなくなったときにのみ、改めて知覚経験を意識することができる。

ウ 人は知覚経験の中で生きているが、そのことを意識する機会は少なく、経験が危機に瀕して日常性が成り立たなくなったときや、日常生活の中でも空間性をもって場に包まれるときに、際立って意識される。

エ 人が知覚経験の中で生きていることは自明のことであり、日常・非日常を問わず、平穏さや危機感の中で絶えず知覚経験を意識することができる。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

95

90

85

80

75

70

65

130

125

120

115

110

105

100

## 問一

——(1)「絶対に棋士になってやる」とありますが、このように祐也が決意したのはなぜですか。解答らんに行以内で説明しなさい。

## 問二

——(2)「中学生になってから、祐也は夜中に目をさますことが増えた。」とありますが、その時の心情を解答らんに行以内で説明しなさい。

## 問三

——(3)「虚勢を張る」とありますが、祐也が虚勢を張っている様子がわかる具体的な四十字以上の一文を抜き出し、最初の五字を書きなさい。

## 問四

——(4)「祐也は父に歩みよった。」とありますが、これはどのような状況ですか。ふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 四連敗しそうでとても苦しい中、父に優しい言葉をかけられて、本当は弱音を吐きたいのに言えずに葛藤している状況。

イ 挽回できそうにない中、駆け付けてくれた父の姿を思いがけず発見し、今までの応援を考えると立つ瀬がなく、謝ろうとしている状況。

ウ 挽回できそうにない中、心配して駆け付けてくれた父に対して、何とか期待に応えられるようにしたいと思っている状況。

エ 四連敗しそうでとても苦しい中、父に言葉をかけられて、思わず父の優しさにすがろうとしている状況。

## 問五

——(5)「千差万別」とありますが、数字を使った次の一～五の成句の意味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 三つ子の魂百まで

二 一か八か

三 口八丁手八丁

四 腹に一物

五 起きて半畳寝て一畳

「意味」

ア うまくいくかわからないが、成り行きにまかせること。

イ 心中に何か悪いたくらみをもっていること。

ウ 必要以上にものをほしがるのはつまらないことだということ。

エ 言うこともすることも達者な人ということ。

オ 幼いころの性質は、年をとっても変わらないということ。

## 問六

——(6)「祐也は眠りに落ちた。」とありますが、その理由としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父の話はありがたいものであったが、教員であるがゆえに教訓めいたものも含まれており、反抗期の祐也にとっては退屈だったから。

イ 父の話はありがたいものであったが、祐也は心の中では棋士になる夢を捨てておらず、関心が持てなかったから。

ウ 二年二か月にも及ぶ研修会員としての生活は強い緊張感を伴うものであり、張りつめていた気持ちがゆるんだから。

エ 二年二か月にも及ぶ研修会員としての生活は強い緊張感を伴うものであり、将棋を指す生活に終止符を打てることにほっとしたから。

## 問七

この作品全体を通じて、祐也の将棋への向きあい方はどのように変化しましたか。解答らんんに三行以内で説明しなさい。

## 問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父は、祐也が将棋のプロになることより普通の中学生としての生活をするを願っており、勉強との両立を宣言しておきながらできていない息子に対して、苦々しい思いで論じている。

イ 父は、祐也が将棋を休むことはやむをえないと考えており、ひとの成長のペースは千差万別なので進路についても世間の評価にとらわれることなく自分らしい選択をすればよいと論じている。

ウ 父は、祐也に対して将棋を休めばよいとずっと考えているが、それぞれの特性にあった能力を伸ばすことが何よりも大切だと思っているので言い出さず、長い目で成長を見守っている。

エ 父は、自分こそが祐也に将棋をやめることを言い渡さなければいけないと思っており、厳しい口調で話をしたが、人間の可能性について話すなど父親としての愛情に満ちた人物である。









